

科目番号	科目名	配当年次	授業形態	単位	担当教員
K102	法学入門Ⅱ	1年	講義	2	吉良貴之
授業概要 民法法を中心としつつ、経済や科学技術、まちづくりとのかかわりをはじめとするさまざまな法律問題を各論的にとりあげ、身近で具体的なテーマを通して「法」の理解を深める。とくに、具体的な「まち」のなかで生活していくにあたっての法のあり方・使い方に焦点をあてる。日々の経済活動や人間関係のなかの法律問題を考えていくとともに、快適な「まちづくり」のためにどのように法律を主体的に「使って」いくかという点を意識する。前期の「法学入門Ⅰ」の発展科目であるため引き続きの履修が望ましいが、未履修の受講生にも十分に配慮した内容とする(Ⅱの履修後にⅠを履修することも可能)。					
到達目標(学習の成果) 現代社会で問題になっているテーマに多く触れることで、3年次以降の法律科目(労働法や会社法など)を学ぶためのより具体的な問題意識を身につけること。また、法律以外の専門科目を学ぶにあたって、法的なものの考え方を応用し、多面的な理解ができるようになるための基礎を身につけてほしい。					
授業計画					
回	表題	学修内容			
1	法的なものの考え方	法律学の基本的な考え方を学び、本講義の目標を理解する。「法学入門Ⅰ」の復習も兼ねる。			
2	法の作られ方	国会において法がどのように作られているか(立法学)を通じて、人間が主体的に作るものとしての法の意味について考えを深める。			
3	法の使われ方	現代社会のさまざまな場面において法がどのように使われているかを、具体的な「解釈」の実例をもとにして理解する。			
4	法と経済	市場のルールとしての法のあり方を理解し、グローバル化する国際社会における経済活動にとっての法の意味について考える。			
5	契約・債権	契約や債権を中心に、民法法の基本的な仕組みについて理解する。不動産契約など、身近な例を素材にすることで考えを深める。			
6	損害賠償	民事紛争の基本的な解決方法である損害賠償について、さまざまな具体的なケースを素材にして基本的な考え方を理解する。			
7	法と科学技術	4-6のさらに具体的なケースとして、最先端の科学技術が法的問題として扱われる場面を取り上げ、「法」と「科学」の関係について理解を深める。			
8	法と環境	科学技術にかかわる法律問題のうち、とくに「環境」にかかわるものを取り上げ、国際法も参照しつつ、多面的な理解を目指す。			
9	法と医療	科学技術にかかわる法律問題のうち、とくに「医療」にかかわるものを取り上げ、生命倫理などの問題とも関係づけながら理解を深める。			
10	法とまちづくり(1)	地方自治や都市計画など、まちづくりにかかわる基本的な法律問題を取り上げ、「シティライフ」における法律の意味を考える。			
11	法とまちづくり(2)	交通にかかわる法律問題を通じて、まちづくりと交通の問題を考える。海外を含むさまざまな都市の取り組みと比較しつつ、地元の問題意識を育む。			
12	法とコミュニティ	人々が他者とともに生活を営む場としてのコミュニティ(共同体)のあり方と、法との関係を考える。地元商店街の復興など、身近なテーマを通して理解を深める。			
13	行政と法(1)	まちづくりにかかわる場面での「行政」のあり方について、どのような法律問題があるかを具体的に理解する。とくに情報公開制度などを素材とする。			
14	行政と法(2)	まちづくりを進めていくうえで、「行政」にどのようにはたらきかけていくことが効果的か、さまざまな都市の実例を取り上げながら理解を深めていく。			
15	法の使い方	経済・科学技術・まちづくりにかかわる法的な考え方を理解するとともに、快適な「まち」を自分たちで作りに上げていくための法律の「使い方」を考える。			

準備学修(授業外の自己学修)

教科書・参考書の該当箇所をよく予習・復習すること。法律や判例についての知識はとくに前提としないが、さまざまな社会問題を事例にして講義を進めるので、毎日のニュースにこまめに目を通し、自分たちの身近にどのような問題があるかについて意識しておいてほしい。

成績評価の方法・基準(%表記)

毎回、講義の終わりに 10 分程度の時間をとって小テストを行う(講義で扱った基本的な知識を問うもの。50%)。学期末には試験またはレポートを実施し、自分なりの問題関心に応じて、法的なものの考え方を使いこなせるかどうかを問う(50%)。

教科書

稲正樹・寺田麻佑・吉良貴之『法学入門』(北樹出版、2014 年 9 月予定)

※ 万が一、出版が遅れた場合は、参考資料の配布にて代替する。

参考書等

講義中に関係するものを指示する。また、毎回、参考資料の配布またはスライド上映を行う。

履修上の注意・学修支援

疑問点がある場合は、授業中や終了後など、いつでも気軽に質問・相談してください。メールでの質問も受け付けます。また、教員ホームページ(<http://j57010.web.fc2.com>)に授業資料を UP するので、学習に役立ててください。